

サロベツ再生通信

創刊号
2003.
10. 22

発行元

サロベツ再生促進協議会

事務局 豊富町農政課

TEL 〇一六二 八十一 一〇〇一

北海道開発局 農業水産部農業調査課

稚内開発建設部農業開発課

環境省自然環境局 西北北海道地区自然保護事務所
稚内自然保護官事務所



サロベツ再生事業に関する情報を発信

豊富町では、平成十四年四月から北海道開発局と環境省が連携調査を開始しております。このことにつきましては、平成十四年六月に開催した『サロベツ・シンポジウム』最北の原野・サロベツの自然と農業のこれまでとこれから』をはじめ、新聞報道や北海道開発局・稚内開発建設部が平成十四年十月に泥炭農地を耕作している農業者の皆さんを対象とした農地の状況や整備要望、自然との共生などについての聞き取り調査などでご存じかと思えます。

この調査では、調査の手法や結果などについて検討する組織として、サロベツ泥炭地開発に携わった学識経験者、豊富町及び調査主体である北海道開発局・環境省で構成される「サロベツ再生構想策定検討会」を設立しているところであり、また、豊富町では、本調査の円滑な推進を図るための組織として農業、観光及び自然に関係する機関で構成する「サロベツ再生促進協議会」を設立しております。

「サロベツ再生構想策定検討

会」はこれまでに四回開催しておりますが、この検討会などで検討されている情報などについては、豊富町に在住されている方々に対して確実に伝達されているとは決断している状況ではございません。このような状況の中では、地域の声を生かした事業の展開は望めないとの意見も踏まえ、サロベツ再生促進協議会及び調査主体であります北海道開発局・環境省は、地域への情報伝達の手段として、この度「サロベツ再生通信」を創刊させて頂くこととなりました。

この「サロベツ再生通信」は、調査の内容及び結果、それを踏まえた検討状況などの情報を発信し、豊富町の皆様のご協力を得ながらサロベツ再生事業に携わる関係機関と豊富町の皆様との架け橋となることを目的としております。

サロベツ再生事業が地域の方々に喜んで頂けるものとなるように、豊富町に在住する方々からの貴重なご意見なども掲載する予定でありますので「読者の声」をお寄せ頂ければ幸いです。



豊富町長 工藤 栄光

豊富町が取り組む『農業と自然の共生』について

まさに今、エコロジーと産業のあり方が改めて問われております。

道北一の酪農郷・豊富町は、開拓の苦汁の歴史と共に、日本の食料確保に大きく貢献してきましたが、それから百年、日本全国で残された自然の価値が見直され、自然と農業開発の新たな関係が模索されています。サロベツは原野開拓、放水路整備により、洪水常襲地帯の原野を牧草地に変え、日本有数の酪農地帯となり、残された自然は貴重な動植物の宝庫として多くの観光客を迎え入れています。

しかし、この酪農郷は湿地を改良して作り上げたものだけに、年々劣化を辿り、牧草地帯では再度湿地化が、湿地では乾燥化が進みササが繁茂するなど自然の景観が少しずつ変化してきております。

このサロベツ原野では以前から調査研究が続けられ「農業開発と自然保存の両立」をモットーに、様々な活動が進められてきましたが、昨年豊富町内の関係機関により「サロベツ再生促進協議会」が設立され、自然と農業を両立させるための新たな方向を検討しております。

サロベツ原野の自然と農業が共存するための保護と農地再生の新たな試みと方向性について、地域の皆さんと共に考え、共に汗し、共に作り上げていきたいと思えます。この度の「サロベツ再生通信」発刊を契機として情報の発信に努めてまいりますので、多くの皆様のご意見を賜りますようお願い申し上げます。



J A 豊富町代表理事組合長 工藤 信義

泥炭農地の再生に向けた取り組みについて

サロベツ地域の泥炭地開発は、食料供給に必要な農地として利用するべく、開拓・農地開発等が進められましたが、泥炭地特有の地盤沈下等により暗渠・明渠排水等の機能低下が著しくトラクター・作業機械の走行や牧草の刈り取りに支障となる草場ができております。

本町の酪農は多頭化飼育が進み、約一万六千頭の乳牛のうち、一万二千頭の粗飼料をサロベツ地域の草地で賄っております。このサロベツ地域の粗飼料の生産は、その年の搾乳量に大きく影響を与えており、地域の基幹産業である酪農振興及び地域活性化を図るために、泥炭農地の機能回復が緊急の課題であります。

現在、この地域では北海道開発局と環境省が連携して、泥炭農地の機能回復と豊富町の貴重な財産であるサロベツ湿原の保全と再生に向けた調査検討を実施しており、関係機関及び地元関係者も一丸となって、その推進に向けて各種検討を行っております。

泥炭農地の再生とサロベツ湿原の保全を連携して行う事業は、全国から注目される地域の一大プロジェクトであることから、その成功に向けて力を注いでいく所存でありますので、町民各位と関係機関に対し、特段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

主な記事

創刊特集

- ・泥炭地におけるこれまでのほ場の整備
- ・泥炭地の形成
- ・河川跡地の状況

サロベツ再生通信の発行元

創刊特集 サロベツの再生とその利用

サロベツに広がる牧草地と原野。今、ここでは互いが隣接していることにより、かつての姿を失っているところがあります。そして、それぞれに共通するのは「泥炭」という特別な土壌の存在と「地下水」の動きがその影響に関わっていることです。さて創刊号での特集は、特に「牧草地」の再生に深く関係する「泥炭」に着目した調査研究の最先端を紹介するとともに、その調査研究により導かれるサロベツでの農業について考えます。

「泥炭」におけるこれまでの圃場の整備

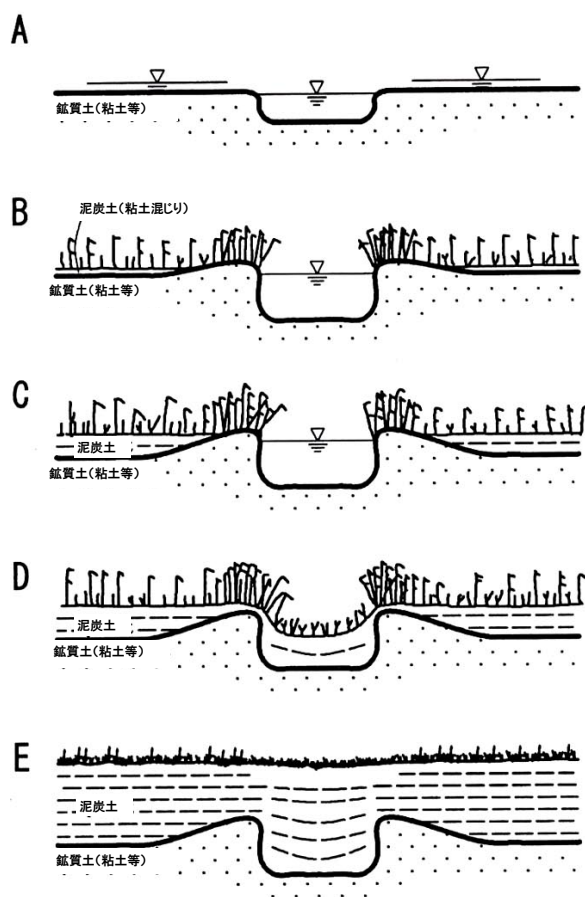
サロベツの地面を覆う「泥炭」は、枯れた植物が完全に腐らず、長い年月を経て厚く積み重なって出来たものであり、その殆どが植物の遺体と多量の水分により構成されている土壌です。

このため、この「泥炭」が分布する牧草地での収穫作業等を容易にするためには、泥炭に含まれる水分を排除する、すなわち圃場外への排水の条件を良くすることが効果的と考えられ、これまで「暗渠排水」等の整備が進められてきました。

ところが、暗渠排水を施しても水はけが悪く、部分的に刈取りや収穫作業等が出来ない圃場も所々で見られます。それはどうしてなのでしょう？



水はけが悪く、牧草の刈り取りが出来ない圃場の例



図－５．泥炭堆積と河川の埋没過程断面図

- A. 鉾質土地盤の上を殆ど自由に流下する川はやがて流路を固定する。
- B. 洪水を繰り返すことで徐々に自然堤防が形成され、後背地には湿生の植物群落が生育し、粘土混じり泥炭が堆積し始める。
- C. 自然堤防の形成がすすみ、後背地では洪水の影響を受けつつ泥炭が堆積してゆく。やがて河川は流量の集中から流路を変更する。
- D. 流路の変更から、それまでの河川部分の殆どは水位が低下、湛水状態となり、やがて植物群落が覆い、泥炭が堆積しはじめる。その泥炭は粗な状態が多い。
- E. 泥炭の堆積がすすみ、河川の地形は完全に泥炭に埋没する。しかし、後背地と異なる河川部分の泥炭の性質は、地表の植生に影響を及ぼしている。

泥炭地の形成（サロベツ泥炭地形成図より引用）

泥炭地の形成

「サロベツ」の泥炭地の形成には「河川」が深く関わっていると言われています。具体的には河川によって土砂や水が低地に運ばれることにより次第に自然に堤防が形成され（左図A～B）、まずその周辺の後背地に泥炭を構成する植物（ヨシ等）が生育、枯死を繰り返しながら堆積し、泥炭が形成されます。（左図C）

そして大きな洪水を機会に川の流れるが変わる等の現象が起こると、古い川筋は塞がれ沼のようになり、やがてその周囲にも泥炭が形成されていき、一面の泥炭地ができあがります。（左図D～E）

このように泥炭地の形成には「河川」に大きな役割があることを解っていただけたと思います。

加えて、特に河川跡に形成される泥炭は、その周囲の後背地に形成される泥炭と異なり、以下の特徴が見られます。

①元々、水が流れていた場所なので周囲の水を集めやすく「水みち」になっていると考えられ、周りの圃場に比べ常に水分が多くジメジメしている。

また、場合によっては水面が現れていることもある。

②河川跡地における流路（凹んでいるところ）及び自然堤防跡（流路縁の盛り上がっているところ）は泥炭土が堆積する厚さに変化を与えている。

そのため、圃場の不等沈下の原因となっていることもある。

以上のように、実はこうした泥炭土を形成する成因が、圃場の部分的なトラブルの要因となっていることが、最近の研究により判っています。

河川跡地の情報

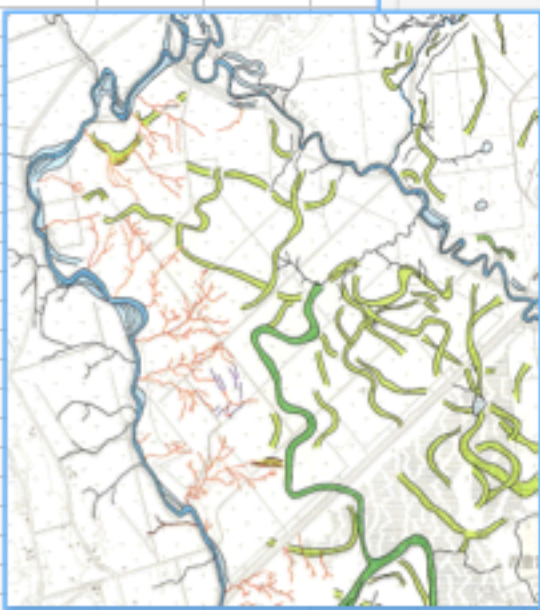
泥炭地では圃場の部分的な水はけが悪い要因の一つとして、その形成過程から「河川跡」が関係していることが明らかにされています。しかし、牧草畑として造成した今日において、地中の「河川跡」を特定することは大変なことです。

そこで稚内開発建設部では、泥炭地に関する研究の第一人者として有名な梅田安治氏（北大名誉教授）と、梅田氏とともに研究をされている清水雅男氏に依頼し、サロベツの泥炭地がどのように形成されたのかを、過去に撮影された航空写真等を用い、河川跡地であることを示す微妙な植生の違い等を判読して、それを図面に整理しました。それが「サロベツ泥炭地 形成図」です。

関心の有る方は、豊富町役場農政課または稚内開発建設部農業開発課でご覧になってください。



「サロベツ泥炭地形成図」の一部拡大図と同位置にて撮影した空撮写真



「サロベツ泥炭地形成図」の一部拡大図（サロベツ排水路北部）



サロベツ泥炭地形成図

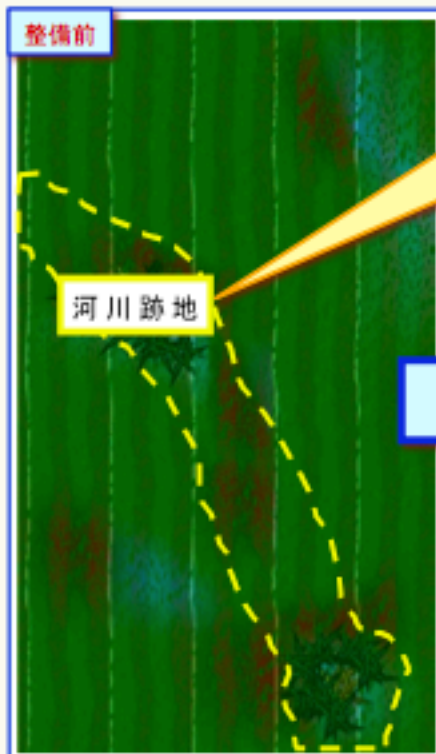
凡	例
1. 河川流路	Stream channel
2. 蛇行	Meander belt
3. 河川跡 (ap)	Trace of former stream channel (ap)
4. 河川跡 (dp)	Trace of former stream channel (dp)
5. 天塩川河川跡	Former river channel of the River TESHIO
6. 樹状沼地	Dendritic pattern channel
7. 弓状沼地	Arc-shaped channel

「河川跡地」を活用した「サロベツ」の再生

これまで、農作業を容易にするための圃場整備としては、区画を四角く、また暗渠や排水路はその区画に合わせた配列とすることが最適と考えられていました。しかし最近の研究により泥炭地における「河川跡」の存在は、圃場条件を大きく左右する要因の一つであることから、この「河川跡」を踏まえた圃場の整備方法を考えていくことが、自然の摂理に則った、最適な整備方法であるとの提言が有識者からなされています。

「サロベツ」に広がる牧草地においても、部分的に湿害がどうしても解消出来ないとか、また凸凹が著しくトラクターの走行に支障のあるなど圃場の使い勝手が悪くなっていると感じたら、「河川跡」を意識した整備を考えてみるのが「牧草地」の再生、ひいては「サロベツ」の再生にもつながる、きっかけとなるのではと考えます。

＜河川跡地を踏まえた圃場整備等の例＞



整備前

河川跡地

整備前の状況
河川跡地を中心に、牧草収獲が出来なかったり、ヨシ・イグサ等の湿気好む雑草の生えているところが点在しています。

河川跡を活用した圃場整備により・・・

河川跡に沿った排水網（暗渠排水・排水路等）の再構築、区画の再整理
区画形状は河川跡地の線形に左右されるため必ずしも四角い圃場にはなりませんが、自然の摂理に即した排水方法の採用により部分的な湿害や圃場の凸凹が相当軽減されるものと考えられます。



整備後

河川跡地を中心とした区画の配置

河川跡地を利用した排水路の配置、湿原植物の栽培や自然再生

河川跡地を利用した湿原植物の栽培、自然再生
河川跡地を利用したもう一つの整備方法として、豊富な水を逆に利用しエゾカンゾウ等の湿原植物を食用等に栽培してみてもどうでしょうか。エゾカンゾウは独特の歯ごたえがあり、多くの愛好者がいると聞きます。
また、その他にも農地から原野へ戻すことも一つの方法です。このことで農業生産性を直接向上させることは出来ませんが、自然を大切にしながら憩いを営むという姿勢を消費者などへアピールする絶好の機会ともなり、生産される乳製品等のブランド化がさらに図られると考えられます。

お知らせ

サロベツには「あなた」の行動力が必要です!!

豊富町のシンボルといえば「サロベツ」。
そのサロベツにひろがる広大な牧草地や湿原は、私たちの大切な宝物です。
豊富町では、そんなサロベツの牧草地や湿原と、そこで根づいた人々の暮らしを、これからも「残したい」「伝えたい」そして未来を担う子供たちへ「託したい」と考えています。
しかし、こうした取組みは、町民の皆さんの参加を無くして出来ることではありません。
そのため豊富町は、この取組みに関心を持ち、そして参加してくれる方々を募集します。

「サロベツ再生」グランドワーク
ワークショップ参加者募集

○豊富町の「町おこし」のためには、まず町の魅力（お宝）を発見し、掘り起こしていくことが大切と考えます。
○そこで「お宝鑑定団」では、豊富町のシンボルである「サロベツ」の開拓の歴史を語るうえで大切な「もの」、「場所」などの「お宝」に関する情報を集め、調査をしながらサロベツの「お宝」についてのリストアップを行います。
そして、リストアップされた「お宝」を町内外へ情報発信することにより、町の魅力を様々な人々に伝えます。
○「お宝鑑定団」では、こうした「お宝」情報の収集・整理に参加頂ける、町民ボランティアを募集します。
○平成15年10月31日まで募集しています。
ふるってご応募下さい。

＜問合せ・応募先＞
豊富町役場 農政課

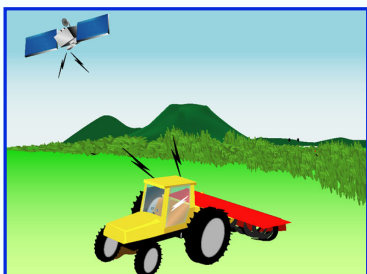
○サロベツの地域づくりにおいては、「農業の持続的発展」、さらには「地域の産業の振興」と「サロベツ湿原の保全再生」との共生が課題となっています。
○様々な立場の皆さんにお集まり頂き、それぞれの立場から、「サロベツ」の将来について自由に議論してもらい、今後の「地域づくり」について考えます。
○定員は30名程度を予定しています。
○回数は、来年3月まで5回程度を予定しています。
○平成15年10月31日まで募集しています。
ふるってご応募下さい。

＜問合せ・応募先＞
豊富町役場 商工観光課

全てのイベントは、豊富町の在住の方で有ればどなたでも参加できます。また、その他にもサロベツに関する、様々な企画を予定していますので、皆さんどしどしご参加ください。

イベント

ロボットトラクターの走行実演



GPSナビゲーションで有名な人工衛星によるGPS等の最先端技術投入し、無人で走行農作業もこなすといふそんな夢のようなロボットトラクターが、いよいよ豊富にも出現します
これは北海道大学で研究開発されている、ロボットトラクターの技術を活用して、農地の状況（特に走行性）を調査するため、来町するものです。当日は自動走行のデモンストレーション等、なかなかお目にかかれないことを見ることができます。みなさんこの機会に是非、見に来てみませんか！

○10月31日 10時～15時頃の予定で行っています
○場所は、落合の伊藤豊さんの圃場です
（サロベツ放水路に隣接する圃場です）

編集後記

創刊号の特集記事「サロベツの再生とその利用」についてはご理解頂けたでしょうか。

今後はなるべくわかりやすいように記事を構成しようと思っておりますので、ご愛読下さいますよう宜しくお願いします。

また、この通信の内容に対するご意見や今後取り扱ってほしい記事、さらには北海道開発局・環境省が行っている調査についてご質問等がございましたら下記「お問い合わせ先」までご連絡下さい。

◆上記募集に関する問合せ・申込み、本紙に関する質問などはこちらへ◆

豊富町役場

【農政課】本紙のこと、「お宝鑑定団」・ロボットトラクターのこと
【商工観光課】「サロベツ再生」グランドワークのこと
〒098-4110 天塩郡豊富町大通6丁目
TEL (0162) 82-1001 FAX (0162) 82-2806